

平成26年（2014）2月 入域観光客数概況

2月の観光客数は、50万3,100人
対前年（H25）同月比 +3万9,900人、+8.6%
～2月の過去最高を記録、17か月連続で前年同月を上回る～

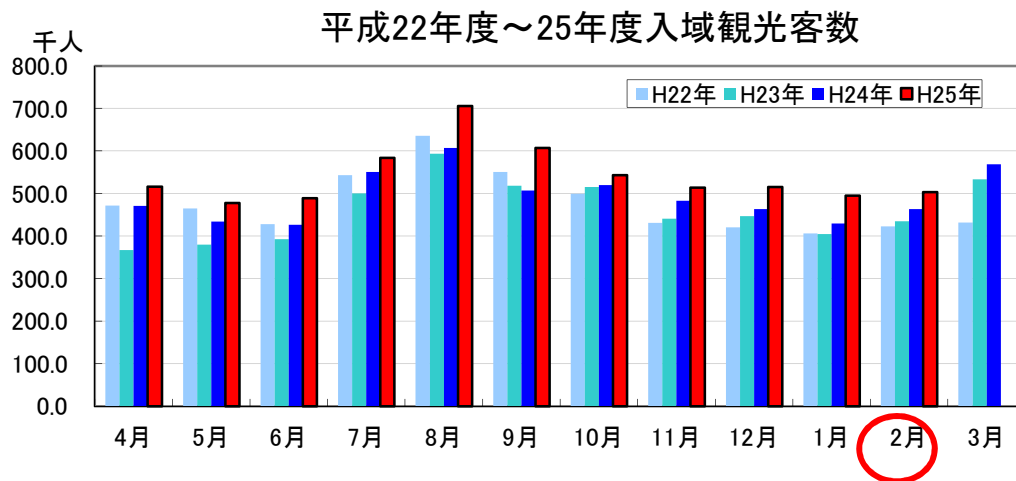
入域状況

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	458,800 人	438,700 人	+ 20,100人	+ 4.6%	91.2%
外国客	44,300 人	24,500 人	+ 19,800人	+ 80.8%	8.8%
合計	503,100 人	463,200 人	+ 39,900人	+ 8.6%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	458,800 人	438,700 人	+ 20,100人	+ 4.6%	91.7%
外国客	41,300 人	23,700 人	+ 17,600人	+ 74.3%	8.3%
合計	500,100 人	462,400 人	+ 37,700人	+ 8.2%	100.0%



国内客 入域状況

2月は、上旬・中旬で2度の大雪に伴う航空便欠航の影響により、一部方面では入込が落ち込んだものの、下旬には回復し、月全体では前年並みとなった。
3月は、春休みの旅行需要に支えられて、個人旅行、団体旅行ともに順調に販売されており、一部方面を除いては引き続き好調に推移する見込み。

外国客 入域状況

2月は、前年春節の日並びの影響で伸び率が落ち着いたものの、チャーター便や臨時便が増加したことにより、好調に推移した。
3月以降も航空路線の拡充が予定されていること、また、拡充に伴い運賃や旅行商品価格が低下して需要が喚起されていることから、前年以上に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	227,200 人	220,200 人	+ 7,000人	+ 3.2%	49.5%
関西方面	87,500 人	75,600 人	+ 11,900人	+ 15.7%	19.1%
福岡方面	56,900 人	57,200 人	△ 300人	△ 0.5%	12.4%
名古屋	38,900 人	39,200 人	△ 300人	△ 0.8%	8.5%
その他	48,300 人	46,500 人	+ 1,800人	+ 3.9%	10.5%
合計	458,800 人	438,700 人	+ 20,100人	+ 4.6%	100.0%

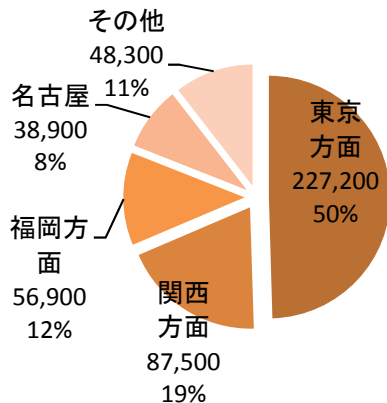
※国内海路客 2,300人を含む(関西:100人、鹿児島:1,600人、その他:600人)

外国客 国籍別入域状況

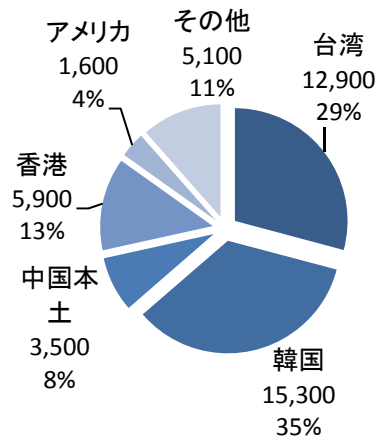
増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度 (特例除く)	H25年度 (特例含む)	H24年度 (特例含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	12,900 人	12,900 人	8,200 人	+ 4,700人	+57.3%	29.1%
韓国	15,300 人	15,300 人	8,600 人	+ 6,700人	+77.9%	34.5%
中国本土	3,500 人	3,500 人	1,300 人	+ 2,200人	+169.2%	7.9%
香港	5,900 人	5,900 人	4,000 人	+ 1,900人	+47.5%	13.3%
アメリカ	1,400 人	1,600 人	700 人	+ 900人	+128.6%	3.6%
その他	2,300 人	5,100 人	1,700 人	+ 3,400人	+200.0%	11.5%
合計	41,300 人	44,300 人	24,500 人	+ 19,800人	+80.8%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	12,900 人	12,900 人	+57.3%	32.6%	0 人	0 人	-	0.0%
韓国	15,300 人	15,300 人	+77.9%	38.6%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	3,500 人	3,500 人	+169.2%	8.8%	0 人	0 人	-	0.0%
香港	5,900 人	5,900 人	+47.5%	14.9%	0 人	0 人	-	0.0%
アメリカ	400 人	400 人	+33.3%	1.0%	1,000 人	1,200 人	+200.0%	25.5%
その他	1,600 人	1,600 人	+77.8%	4.0%	700 人	3,500 人	+337.5%	74.5%
合計	39,600 人	39,600 人	+70.0%	100.0%	1,700 人	4,700 人	+291.7%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

2月は、2度の週末の大雪に伴う航空便欠航により旅行キャンセルが出たものの、プロ野球キャンプの応援や団体旅行を中心に全体では前年をわずかに上回った。
3月は、春休み関連のツアーや団体旅行商品が順調に販売されているのに加え、石垣島をはじめとする離島路線の予約状況も好調なため、前年以上に推移する見込み。

大阪

2月は、大雪に伴い航空便に一部欠航や遅延があったものの、入込には大きく影響せず、前年並みとなった。LCC利用の旅行商品はあるものの利便性がネックとなり、通常の旅行商品(FSC利用)の販売が好調。
3月はイベント等の誘客効果、4月以降は伊丹路線の増便や一部旅行会社がキャンペーンを強化していることから、好調に推移する見込み。

福岡

2月は、1月まで低迷していたweb商品や航空券単体予約、旅行商品の申し込みが直前に増えたものの、前年並みとなった。
3月以降は、添乗員付きの旅行商品を中心に、チャーター便の企画商品の販売状況もよく、好調に推移する見込み。3月後半から全日空の福岡-石垣路線が例年より早く再開するため、八重山方面への入込も期待できる。

名古屋

2月は、2度の大雪に伴う航空便欠航が旅行キャンセルにつながり、前年より若干の減となった。
3月は、石垣島及び周辺離島を回るツアーが好調となっているものの、全体としては販売状況は前年並みに推移する見込み。

台湾

2月は、前年と比較して航空路線が拡充されたことに加え、安価な旅行商品が販売されていることもあり、好調に推移した。
3月以降、例年以上にインセンティブツアーが好調であること、また、台北-石垣のチャーター便がひと月早く再開することから、前年以上に推移する見込み。

韓国

2月は、先月同様に航空路線が拡充した影響により、前年実績を上回った。新規航空会社の参入で旅行費用が下がっており、家族旅行や学生旅行、インセンティブツアーが好調。
3月も引き続き、航空運賃値下げによる旅行需要の増加と安定したゴルフ旅行需要に支えられ、好調に推移する見込み。

中国本土・北京

2月は、円安傾向が継続しているのに加えて、春節後半の旅行需要に支えられ、好調に推移した。春節時期には東京と沖縄を組み合わせた旅行商品も販売された。
3月は、下旬から4月上旬の西安発の沖縄ツアーが順調に販売されている模様。この時期は、旅行動向は鈍くなるものの、4月以降は夏に向けて徐々に回復していく見込み。

中国本土・上海

2月は、1月末からの吉祥航空の就航効果により前年を上回った。吉祥航空就航により、新たに沖縄旅行商品を扱う旅行会社が出てきている。
3月は、春節後の旅行需要が落ち込んではいないものの、中国人向けクルーズ船の寄港が予定されていることから、海路客を中心に好調に推移する見込み。

香港

2月は、個人旅行、団体旅行ともに好調で、前年を上回った。大手旅行会社では多数のツアー商品を販売するなど、独自に需要喚起のキャンペーンを行っている。
3月以降、香港航空が増便(ダブルデイリー)となるため、現地だけでなく中国南部・東南アジア方面からの送客も見込まれ、春・夏の旅行シーズンに向け好調に推移する見込み。